

「西高フォーラム」

第6回公開シンポジウムへのお誘い

主催 一般財団法人西高会
都立西高同窓会
後援 杉並区教育委員会

広く社会に貢献するための試みとして、西高卒業生の専門家による公開シンポジウム「西高フォーラム」を行っております。今年は下記の通り開催いたします。同窓生だけでなく、広く地域の皆様をはじめ生徒、ご父兄、教職員の皆様のご参加をお待ちしています。

1. テーマ：「エネルギー危機と日本経済 震災復興を契機とした持続可能な社会の構築」

2. 日時：2012年6月16日（土）午後1時30分から4時まで

3. 入場無料

4. 場所：西高視聴覚ホール（西高正門を入れて左側の建物）

5. パネリスト

たむら えみこ
田村 恵美子 氏（西20期） 元スウェーデン大使館・科学技術参事官補

たなはし のぶゆき
棚橋 信之 氏（西24期） J X日鉱日石エネルギー・常務執行役員
環境・品質本部長

きたむら たけし
北村 健 氏（西28期） Marubeni Power Asset Management Ltd.（香港）
President & CEO

はしもと りゅうじ
橋本 龍治 氏（西34期） J-POWER 電源開発 水力発電部

コーディネーター

ほそだ えいじ
細田 衛士 氏（西24期） 慶応義塾大学経済学部教授、
環境経済学

問い合わせ先 一般財団法人 西高会
TEL03-3332-1688

エネルギー危機と日本経済 - 震災復興を契機とした持続可能な社会の構築 -

昨年 3 月に起きた東日本大震災は日本人に計り知る事のできない悲しみと苦痛を与えた。失われた尊い命、破壊された地域社会、消失した財産、どれをとっても戦後未曾有の規模の災害で、誰もが魂を揺さぶられる思いがした。そればかりでなく、3.11 は日本人のこれまでのものの考え方を根底から覆した。戦後最大の公害と言われる福島第一原発の事故によって、使いたい放題エネルギーが使え、作りたいたけものが作れ、欲しいだけものが買えるという「当たり前であったこと」が当たり前ではなくなったのである。

2012 年 3 月 30 日現在 54 基あるうちの 53 基の原発は停止状態にあり、残りの 1 基も点検のためやがて稼働が止まる。一方一般の天然資源の価格高騰と歩調を合わせるように原油価格も上昇していて、将来のエネルギー供給への不安が増しつつある。シェールオイルやメタンハイドレードなどへ期待が高まるものの、費用や環境負荷の面などで考慮すべき点多く、不安が残る。また地球温暖化問題への対応を考えると、化石燃料ばかりに頼ることもできず、総合的なエネルギー供給のあり方を考えなければならない。

そのような状況の中、昨年計画停電以降の省エネルギー努力は国民の各層に浸透し、まだまだエネルギー節約は可能であるという思いを強くさせた。生産者においても消費者においても今後の一層の省エネルギー努力が求められる。他方、風力発電や太陽電池の普及も急速に進んでおり、こうした再生可能エネルギーを初めとした分散型電源の発展もこれからより注目を集めるだろう。日本の再生可能エネルギー利用は、技術の面でもシステムの面でもまだまだ改善の余地が大きい。

言うまでもなくエネルギーなくして健全な経済発展はありえない。他方、欲しいだけのエネルギー源が開発され、供給されるというのも幻想である。従来型の経済システムを大きく修正することは避けられない。それでは、今後どのような経済システムを構築すればよいのだろうか。災害に強い、そして環境調和型の持続可能な社会に向けて体制を立て直すことは我々の使命ではないだろうか。震災復興を契機として、すべての日本人が様々なレベルでこの問題に取り組むべきであると思われる。

しかしこの問題に 100 点満点の解答などあるわけがない。今すべての日本人が道を模索し、叡知を集めてこの挑戦に立ち向かうことこそが重要なのである。100 点満点の解答はなくとも、80 点、90 点の解答を書き続けて行けば必ず道は開け、新しい経済社会像を描けるはずである。戦後の焼け跡で先人たちがなしたことが我々にできないはずがない。

かくのごとき考え方にに基づき、このシンポジウムではさまざまな領域でご活躍の方々にそれぞれの立場から自由に御発言頂き、新しい持続可能な社会構築のために、より高い点数の解答を求めて模索してみたい。